



《雨過天晴》2017年 作家蔵

Kan IRIE

2017年9月16日[土]→11月5日[日]

休館日=毎週月曜日(祝日のときは開館し、その翌日を休館)

入館料=一般720(640)円、大学生510(460)円、高校生以下は無料

開館時間=午前9時30分—午後5時(入館は午後4時30分まで)

※()内は20名以上の団体割引料金

※開館記念日10月8日[日]は、入館料無料となります。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方とその付き添いの方1名は無料となります。

※第3日曜日「家庭の日」(9月17日、10月15日)は、大学生は無料となります。

主催=公益財団法人 小杉放菴記念日光美術館/日光市/日光市教育委員会/下野新聞社

KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO



小杉放菴記念日光美術館

〒321-1431 栃木県日光市山内2388-3
Tel.0288-50-1200 <http://www.khmoan.jp>

開館20周年記念

故郷ふるさと—日光を描く

入江観



《双稜冠雪》2012年 作家蔵



《晴天静流》2017年 株式会社 創徳企業情報蔵

入江 観 ふるさと 故郷一日光を描く

入江観(春陽会会員、女子美術大学名誉教授)の、日光では13年ぶりとなる個展を開催いたします。

入江観は1935(昭和10)年、栃木県日光町(現・日光市)に生まれました。1953(昭和28)年に東京藝術大学美術学部藝術学科へ入学後、加山四郎に学び、在学中の1956(昭和31)年には第33回春陽会展に初入選、同会の研究所で岡鹿之助、三雲祥之助らの指導を受けました。春陽会の創立に関わった小杉放菴が日光の出身であり、小学校の先輩でもあったため、少年時代から放菴の名前と春陽会の存在を強く意識していたといいます。

1962(昭和37)年、フランス政府給費留学生として渡仏。フランス国立高等美術

学校でモーリス・ブリアンションに師事し、セザンヌの作品を見るために足繁く印象派美術館へ通い、サロン・ドートンヌにも出品しました。1964(昭和39)年に帰国後、春陽会会員に推挙。1967(昭和42)年に、勤務先であった女子美術短期大学の茅ヶ崎校舎開校にともない、茅ヶ崎に転居し、海辺の光景を描くようになります。以後も旺盛な制作活動が続け、毎年春陽会展に出品。同会を牽引していく立場となり、公立美術館で個展が開催されるなど実績を重ね、現在も女子美術大学名誉教授、日本美術家連盟理事として、美術界の第一線で活躍しています。

広く青い空や、彼方に見える水平線が印象的な、「茅ヶ崎の画家」というイメージの強い入江観ですが、ここ10年ほどは故郷・日光を精力的に描いてきました。本展では、画家が愛する日光の風景を描いた、旧作から最新作までを一堂に会し、入江観にとって、故郷とは、日光とは何なのかを問い直すことで、「蒼天の画家」と呼ばれるこの画家の、新たな魅力に迫りたいと思います。



《湖畔の朝》1986年 個人蔵



《青山》1987年 個人蔵

●入江観氏によるギャラリー・トーク

日時=9月30日[土] 午前10時30分より(1時間程度)
※入館券をお求めのうえ、美術館受付前にお集まりください。

●ワークショップ 入江先生とスケッチに行こう!

講師=入江観氏
日時=10月28日[土] 午前10時より(2時間程度)
対象=小学1年生から一般。小学3年生以下は保護者同伴。
先着15名まで。
会場=美術館周辺。雨天時は美術館体験実習室で静物デッサン講習会。
申込方法=10月3日午前9時から受付開始。美術館まで電話でお申し込みください。
必要なもの=鉛筆、スケッチブック、レジャーシート。
参加費=720円(展覧会の観覧料も含まれています)

●担当学芸員によるギャラリー・トーク

日時=10月15日[日] 午前10時より(1時間程度)
日時=11月2日[木] 午前10時30分より(1時間程度)



《翠瀾》2013年 作家蔵



《懐郷の山》2010年 作家蔵



【交通案内】

◎電車=東武日光駅、JR日光駅から清滝・細尾・中禅寺・湯元、西参道(東照宮)方面行きバス5分。神橋停留所より徒歩3分
◎車=日光宇都宮道路・日光インターから約2km
◎駐車場=併設の市営駐車場をご利用ください。美術館受付で駐車券を提示していただくと、1時間まで無料となります。休日、美術館周辺はたいへん混み合う場合がございますので、時間には余裕をもってお越しください。

小杉放菴記念日光美術館

〒321-1431 栃木県日光市山内2388-3 Tel.0288-50-1200 <http://www.khmoan.jp>